

平成 30 年度第 1 回スクラムスクール運営協議会 記録

平成 30 年度 5 月 24 日
御前崎市文化会館大研修室

1、河原崎全教育長あいさつ

・「早寝・早起き・朝ご飯」を推進。今後は、読書や戸外での遊びも。

2、会長・副会長の選出（学校教育課長）

・規約第 10 条に「協議会に会長及び副会長を置く」とある。平成 29 年度正式に初めて選出したところ、会の運営が、スムーズだった。29 年度の会長・副会長さんの退任に伴い、新しく選出。事務局から推薦させて頂いた。浜中学区は、浜中 P T A 会長の小川徹様。御中学区は、大澤孝久様。副会長は、浜中学区は、地域代表の沖千鶴様。御中学区は、横山賢一郎様。

3、会長・副会長挨拶（御前崎中学区会長・浜岡中学校区会長）

（浜中 小川会長） ・昨年度より参加。今年度もご協力をお願いします。

（御中 大澤会長） ・本年度より参加。スクラムを組んで進めていきたい。ご協力をお願いします。

（副会長・ ・立って頂き、紹介）

4、学校教育課より（長谷川課長）（組織図参照）

（1）スクラムスクール運営協議会の規約の確認・ ・規約参照

規約の確認。第 4 条 任期について。改正していく予定あり。その場合は、報告。

（2）昨年度までのスクラムスクール運営協議会の取り組み

・平成 29 年度 3 月の資料を使って説明。

スクラムスクール運営協議会は、有識者・地域代表・P T A 代表・園・小中学校・池新田高校・教育委員会他で構成されていて、毎回 80 名近くの出席者。

・スクラムスクール運営協議会を立ち上げた理由。

子どもをとりまく環境の変化で、人とかかわる事が苦手な子が増えている。小 1 プロブレム中 1 ギャップ等の課題がある。園・小・中・高が繋がっていかなくてはいけないという思いから、平成 26 年度から、スクールスクラムプランで繋がっていくようにした。先生の交流や話し合いによって、教員同士の距離が縮まった。子ども同士の交流も始まった。家庭・地域とも同じ思いで進んでいきたい、地域を巻き込んでいきたいということから、繋がる仕組みとして、スクラムスクール運営協議会を立ち上げた。県内ではなかなか進んでいない。こうして一堂に会して行っているのは御前崎市だけである。御前崎市は、他市に先駆けて行っている。

・具体的に進めてきたこと。

①あいさつ運動

②スクラムカレンダー

より地域の人に知ってもらうことが、課題。

③「早寝・早起き・朝ご飯」（本年度の重点でもある）

御前崎市の小学 4 年生と中学 1 年生の「生活に関する調査」と「学力状況調査」とを照らしあわせると、正直、高いとは言えない。きちんとした生活で、学力・体力も高めていきたい。市 P 連の会合で、各 P の取り組みの報告があったが、すでに、「早寝・早起き・朝ご飯」を取り入れてくれている学校があった。

(3) 本日の協議会について

- ・各校からの報告や地域の方からのアイデアを出してもらい、園・学校・家庭・地域が繋がっていきけるよう、お知恵をお借りしたい。

5、協議

(中学校区)

- ・スマホの利用の制限を。これに関する掲示物を貼る。(生徒がいつも見ることができるよう)グッドマナー運動。・企業やPTA会員である保護者にも広げる。協力を申し出ている企業もある。活性化して、浸透させ、プライドへつなげたい。
- スクラムカレンダー・地域の人に伝わっているか、疑問。
- 早寝・早起き・朝ご飯・浸透させていきたい。

(地頭方小学区)

- ・早寝・早起き・朝ご飯・意識づけが大事。
- ①子どもには、個々に声かけをする。
- ②朝食調べ・子どもや親への意識づけが大事。・どうして必要かをもっと知らせる。会合で広めていく。市や協議会で資料を配付。
- ③地域への意識づけ・カレンダーで大きく表示。
 - ・グッドマナー運動・挨拶運動・あいさつレンジャーで。
 - ・きっかけ作り・まずは、声に出す。これを積み重ねていく。まずは、親への投げかけ。そうしている内に、段々と言えるようになるのではないか。

(白小・御小学区)

- ・取り組みの紹介・プリント配布。ふれあいカード利用。白小学区では、スクラムカレンダーで、「早寝・早起き・朝ご飯」レシピも載せている。努力目標・基準があいまい?・早寝・早起きの数値化をしていく方法もいいのでは・。
- 重要性の理解によって違うのでは無いか。親・家庭の意識づけ・気づいていくことが大事。
- 各家庭でやることを考える。とにかくやってみる事が大事。スクラムを地域に広めていくことが大事。

(北小学区)

- ・状況把握。PTA総会で説明し、何のためにか を、周知。家庭の教育力を高める。県教委の「つながるシート」の活用。
- ・北こども園では、学校教育課から配布された資料を元に説明。挨拶運動を当番制にすることで、挨拶することへの意識が高くなってきた。
- ・「おはよう」+(プラス)一言の声かけを。・挨拶の課題・親に働きかけを。
- ・子どもの目線に下がって、挨拶を。タッチするなどのふれあいも大事。子ども達同士の挨拶は、できているか?・課題。・他市の様子も聞きたい。
- ・地域に広めていく・サポート隊・交通指導隊にも入ってもらおうなど。

(東小学区)

- ・発信が大事。親・子どもの意識を高めていくことが大事。講演会・おたより・懇談会で実態を言い合う等も大事では・・・。
- ・御前崎市出身の飯塚翔太さんや石井孝良さんの協力を得て、親や子どもたちに、「早寝・早起き朝ご飯」の大切さを発信していくのはどうか。 お金のかかることなので、行政の協力も得ていく。

(第一小学区)

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」・・・具体的な目標が必要では無いか。
- ・スクラムカレンダーを活用できるものに。
- ・今年は、「早寝・早起き・朝ご飯」のこれをやるというふうに、ピンポイントで取り組む。
- ・挨拶・・・地域との連携。結びつきを強める大切さ。
- ・地域への呼びかけ。会合で伝えていく。サポート隊の協力を得る。できる人ができる時、できる事から。回覧板で、知らせていく。

6、指導・助言

静岡大学 中村先生・島田先生

○中村先生

非常に熱心な話し合いだった。各人が、各々の意見とは違う人・自分とは違う意見の人がいることを知るスタートの日だった。資料「スクラムスクール運営協議会共通実践事項」の図の中の「基本的生活習慣の確立」というところが重要。個人が持っている様々な習慣。他の人は違うことを意味している。個々の習慣・集団のもつ習慣。習慣・慣習の違い。大人がこれだけ違うのだから、それぞれの家庭の方針は、もっと違う。それを受けて、どうしていけば、よりよい地域になっていくかを、話し合うきっかけの日。いいスタートが切れた。お互いの事をよく知っていき、それを子どもとシェアする。

○島田先生

この会に参加して4年目。御前崎市の取り組みは、県内的には、珍しい。これだけの人が集まって話し合うのは、意義有ること。1回目にもかかわらず、いい協議ができた。

基本的な生活習慣は、答えがない問い。これからの社会をどう捉え、どう対応していくかが、キーワード。

いろいろな人の考えを尊重しながら、話し合い・協議する。それが、SSの核。

①立場の違い

できること・できないことがある。強み・弱みを補い合うためのアイデアを。

②今後、進めていく中で、迷ったりするときがあったら、

スローガンの「つながり つくろう スクラムで」に戻り、振り返る。

③楽しんで、参加してほしい。